

は、平成2年に児童相談所の虐待相談処理件数を統計に取り上げた頃から、児童虐待に対応する児童相談所や児童福祉施設の援助機関では認識されて始めていた。しかし、年々急激な増加の一途を辿る児童虐待に援助機関の対応が追いつかない状況が続いているなかで、改めて、これらの援助機関職員のトレーニングの必要性が認識されるようになってきたが、未だ具体的なトレーニングの展開までには至っていない。今後、具体的なトレーニングの展開を図るために、OJT・SV・研修を統合した体系的なトレーニングプログラムの作成が求められるものと考え、本分担研究では、以下のように整理を行った。

OJT・SV・研修を統合した人材育成プログラム

- ① OJTの積極的導入：OJTの理解・導入、具体的な実践例の集積・紹介（情報提供）、普及・啓発
- ② スーパーバイザーの養成：養成講座プログラムの作成、講座の各地での継続開催、フォローシステム
- ③ 研修の体系化：経験年数別プログラムの作成、実務課題に即した内容、ステップアップ方式の採用

今後、これらを臨機応変に組み合わせることでトータルに組織的な人材育成を図るとともに、国、自治体、大学、民間団体等の共同により、全国レベルで児童相談所、児童福祉施設職員の人材育成プログラムの開発を行う必要がある。

なお、本分担研究では、次年度には、児童相談所、児童福祉施設のソーシャルワーカー及びケアワーカーに対してアンケート調査を実施し、①経験年数別研修のモデル

プログラムの作成、②スーパーバイザー養成講座プログラムの作成、③OJTの実践例の集積を目指すとともに、関連領域における人材育成としてのトレーニングの実情把握に努め、ソーシャルワーカー及びケアワーカーのトレーニングのあり方について提言する。

H. 研究発表

1. 論文発表
2. 学会発表

日本子ども虐待防止学会第12回
学術集会で発表予定

I. 参考文献

1. 児童福祉分野における職員の専門性及びその国際比較に関する研究「厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)平成14年度研究報告書 主任研究者 高橋重宏」
2. ソーシャルワーク実務基準および業務指針「全米ソーシャルワーカー協会編 日本ソーシャルワーカー協会訳 相川書房」
3. ワーカーを育てるスーパービジョン（よい援助関係をめざすワーカートレーニング）「社会福祉法人 奈良社会福祉協議会編集 中央法規」
4. 福祉の「職場研修」マニュアル（福祉人材育成のための実践手引き）「社会福祉法人 全国社会福祉協議会 在宅福祉サービス従事者の職場内研修のあり方に関する調査研究委員会」

児童相談所調査票 I

調査票1

自治体名 _____

I 貴自治体における児童相談所職員の研修等、人材育成の担当部署についてお尋ねします。

1. 担当部署 ()
2. 担当部署が児童相談所である場合、所管課との役割分担はどのようにされていますか。
()

II 児童相談所及び職員についてお尋ねします。

1. 児童相談所設置数及び職員数(所長は除く)をお教えてください。

児童相談所数 _____ ケ所 一時保護所数 _____ ケ所

平成 17 年 11 月 1 日現在

職 種	常 勤	非 常 勤
① 児童福祉司		
② 児童心理司		
③ 保健師		
④ 看護師		
⑤ 医師(小児科)		
⑥ 医師(精神科)		
⑦ 児童指導員		
⑧ 保育士		
⑨ 相談員		
⑩ その他		

2. 上記職員数及び経験年数(常勤職員のみ)をお教えてください。

平成 17 年 11 月 1 日現在

職 種	1 年目	2~5 年目	6~10 年目	11 年目以上
①児童福祉司				
②児童心理司				
③児童指導員				
④保育士				
⑤相談員				

3. スーパーバイザーとして位置づけている職員数をお教えてください。

- ① ソーシャルワークの領域 _____ 名
- ② 心理の領域 _____ 名
- ③ 一時保護の領域 _____ 名

資料- 1

4. 児童福祉司の採用区分と任用の仕方をお教えてください。

採用区分では、該当するところに■印をお願いします。

(1) 採用区分 ① 専門職採用 ② 行政職採用

(2) 任用の仕方(新採、配転を問わず、貴自治体での実情をお教えてください)

Ⅲ 職員の研修等、トレーニングについてお尋ねします。

1. 職員の研修等に関する予算(全児童相談所分)

① 平成 16 年度 _____ 千円

② 平成 17 年度 _____ 千円

2. 職員の人材育成に関する方法と内容をお教えてください。

該当するものすべてに■印をつけ、その方法と内容を具体的にご記入してください。

① 厚生労働省、近畿児童相談所研修への参加

② 児童福祉施設の研修または施設との合同研修への参加

③ 医療・保健等関連分野の研修への参加

④ 個別スーパービジョンの実施

⑤ グループスーパービジョンの実施

⑥ スーパービジョン以外のオンザジョブトレーニングの実施

⑦ 児童相談所以外の機関へ研修の依頼・委託

⑧ その他(具体的な内容、方法を記入してください)

3. 研修等の企画・評価の方法をお教えてください。該当するものすべてに■印をお願いします。

① 研修等企画会議で検討し、研修等計画を作成している

② 外部の専門家等に助言を求め、研修等計画作成の参考にしている

③ 評価基準を作成し、次年度の計画に活用している

④ 研修ごとに内容についてアンケートを取っている

⑤ 研修全体のあり方についてアンケートをとっている

⑥ その他(具体的に: _____)

4. 研修等に関する工夫についてお教えてください。該当するものすべてに■印をつけ、その方法と内容を具体的にご記入ください。

① 職員の自主研修を業務として位置づけしている。

② 参加率を高めるための工夫をしている。

③ 民間団体、学会等への参加を業務として位置づけしている。

- ④ 他自治体や機関等へ派遣している。
- ⑤ 大学、民間団体等との提携(委託、協力等)をしている。
- ⑥ その他

5. 児童相談所1年目の職員、2～5年目の職員、6年目以上の職員に必要と考えるトレーニングメニューはどのようなものですか。以下のア～ニの中から必要と思われるものをそれぞれ3つ選んで、()内に番号でお答えください。

- ① 児童相談所職員に必要な価値・倫理
- ② 子どもの権利擁護の観点の確立
- ③ 子どもの発達・パーソナリティ、問題行動等の理解
- ④ 子ども家庭相談の理解と対応方法
- ⑤ 児童福祉法等関連法、通知の理解
- ⑥ 市町村、保健機関、学校等関係機関の役割理解と連携方法
- ⑦ 各種援助技術の理解と技術の習得
- ⑧ 虐待対応ソーシャルワークの理解と技術の習得
- ⑨ 非行問題の理解と対応方法
- ⑩ 一時保護、施設入所措置への対応方法
- ⑪ 保護者指導(治療)に関する対応方法
- ⑫ スーパービジョンに関する知識と技術の習得
- ⑬ ストレスマネジメント等のメンタルヘルスの理解
- ⑭ ケースマネジメントの理解
- ⑮ 緊急対応や危機管理に関する知識や方法
- ⑯ 各種障害の理解と対応方法
- ⑰ その他()

- (1) 1年目の職員 () () ()
- (2) 2～5年目の職員 () () ()
- (3) 6年目以上の職員 () () ()

6. 平成16年度に実施した職員研修等について、調査票2 のⅠ、Ⅱにより、ご記入ください。
なお、調査票2 のⅠで、D 内容 欄は、別紙の研修内容リストメニューから該当するもの
すべてを記号でご記入ください。

7. 研修等職員のトレーニングに関する課題と今後のあり方について、できるだけ具体的にご記入ください。(いくつでも結構です。)

① 課題

② 今後のあり方

回答者のご氏名、役職等についてご記入ください。 作成日 平成17年11月 日

ご氏名 _____ 役職 _____

ご協力ありがとうございました。

調査票2

この用紙にご記入ください。

I 職員研修(平成16年度)について記入してください。

№	A 研修テーマ	B 対象	C 経過年数	D 内容	E 分類	F 手法	G 講師	H 場所	受講者数	I 時間 分×回	J 教材
		①□全職員 ②□管理職 ③□児童福祉司 ④□児童心理司 ⑤□一時保護所職員 ⑥□その他()	①□新採・新任 ②□5年未満 ③□5～10年 ④□10年以上 ⑤□スーパージニア ⑥□その他		①□価値倫理 ②□知識 ③□技術 ④□政策提言 ⑤□その他	①□講義 ②□演習 ③□スーパージニア ④□その他	①□児相職員 ②□学識経験者 ③□関係団体職員 ④□その他 ⑤□なし	①□児相相談所 ②□自治体研修センター ③□講師所属機関 ④□その他			①□統一教材 ②□テーマ毎に講師が作成 ③□その他 ④□なし
		①□全職員 ②□管理職 ③□児童福祉司 ④□児童心理司 ⑤□一時保護所職員 ⑥□その他()	①□新採・新任 ②□5年未満 ③□5～10年 ④□10年以上 ⑤□スーパージニア ⑥□その他		①□価値倫理 ②□知識 ③□技術 ④□政策提言 ⑤□その他	①□講義 ②□演習 ③□スーパージニア ④□その他	①□児相職員 ②□学識経験者 ③□関係団体職員 ④□その他 ⑤□なし	①□児相相談所 ②□自治体研修センター ③□講師所属機関 ④□その他			①□統一教材 ②□テーマ毎に講師が作成 ③□その他 ④□なし
		①□全職員 ②□管理職 ③□児童福祉司 ④□児童心理司 ⑤□一時保護所職員 ⑥□その他()	①□新採・新任 ②□5年未満 ③□5～10年 ④□10年以上 ⑤□スーパージニア ⑥□その他		①□価値倫理 ②□知識 ③□技術 ④□政策提言 ⑤□その他	①□講義 ②□演習 ③□スーパージニア ④□その他	①□児相職員 ②□学識経験者 ③□関係団体職員 ④□その他 ⑤□なし	①□児相相談所 ②□自治体研修センター ③□講師所属機関 ④□その他			①□統一教材 ②□テーマ毎に講師が作成 ③□その他 ④□なし
		①□全職員 ②□管理職 ③□児童福祉司 ④□児童心理司 ⑤□一時保護所職員 ⑥□その他()	①□新採・新任 ②□5年未満 ③□5～10年 ④□10年以上 ⑤□スーパージニア ⑥□その他		①□価値倫理 ②□知識 ③□技術 ④□政策提言 ⑤□その他	①□講義 ②□演習 ③□スーパージニア ④□その他	①□児相職員 ②□学識経験者 ③□関係団体職員 ④□その他 ⑤□なし	①□児相相談所 ②□自治体研修センター ③□講師所属機関 ④□その他			①□統一教材 ②□テーマ毎に講師が作成 ③□その他 ④□なし
		①□全職員 ②□管理職 ③□児童福祉司 ④□児童心理司 ⑤□一時保護所職員 ⑥□その他()	①□新採・新任 ②□5年未満 ③□5～10年 ④□10年以上 ⑤□スーパージニア ⑥□その他		①□価値倫理 ②□知識 ③□技術 ④□政策提言 ⑤□その他	①□講義 ②□演習 ③□スーパージニア ④□その他	①□児相職員 ②□学識経験者 ③□関係団体職員 ④□その他 ⑤□なし	①□児相相談所 ②□自治体研修センター ③□講師所属機関 ④□その他			①□統一教材 ②□テーマ毎に講師が作成 ③□その他 ④□なし
		①□全職員 ②□管理職 ③□児童福祉司 ④□児童心理司 ⑤□一時保護所職員 ⑥□その他()	①□新採・新任 ②□5年未満 ③□5～10年 ④□10年以上 ⑤□スーパージニア ⑥□その他		①□価値倫理 ②□知識 ③□技術 ④□政策提言 ⑤□その他	①□講義 ②□演習 ③□スーパージニア ④□その他	①□児相職員 ②□学識経験者 ③□関係団体職員 ④□その他 ⑤□なし	①□児相相談所 ②□自治体研修センター ③□講師所属機関 ④□その他			①□統一教材 ②□テーマ毎に講師が作成 ③□その他 ④□なし

II 研修以外の職員トレーニングに関するもの（OJTなど、平成16年度に実施したもの）があれば、記入してください。

No.	A 内 容 (具体的に)	B 対 象	C 経 験 年 数	D 方 法 (具体的に)	E 講 師	F 場 所	G 時 間 (分)	J 教 材
		<input type="checkbox"/> 全職員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 児童福祉司 <input type="checkbox"/> 児童心理司 <input type="checkbox"/> 一時保護所職員 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> 新採・新任 <input type="checkbox"/> 5年未満 <input type="checkbox"/> 5～10年 <input type="checkbox"/> 10年以上 <input type="checkbox"/> スーパーバイザー <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 原相職員 <input type="checkbox"/> 学識経験者 <input type="checkbox"/> 関係団体職員 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 児童相談所 <input type="checkbox"/> 自治体研修センター <input type="checkbox"/> 講師所属機関 <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 統一教材 <input type="checkbox"/> テーマ毎に講師が作成 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> なし
		<input type="checkbox"/> 全職員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 児童福祉司 <input type="checkbox"/> 児童心理司 <input type="checkbox"/> 一時保護所職員 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> 新採・新任 <input type="checkbox"/> 5年未満 <input type="checkbox"/> 5～10年 <input type="checkbox"/> 10年以上 <input type="checkbox"/> スーパーバイザー <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 原相職員 <input type="checkbox"/> 学識経験者 <input type="checkbox"/> 関係団体職員 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 児童相談所 <input type="checkbox"/> 自治体研修センター <input type="checkbox"/> 講師所属機関 <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 統一教材 <input type="checkbox"/> テーマ毎に講師が作成 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> なし
		<input type="checkbox"/> 全職員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 児童福祉司 <input type="checkbox"/> 児童心理司 <input type="checkbox"/> 一時保護所職員 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> 新採・新任 <input type="checkbox"/> 5年未満 <input type="checkbox"/> 5～10年 <input type="checkbox"/> 10年以上 <input type="checkbox"/> スーパーバイザー <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 原相職員 <input type="checkbox"/> 学識経験者 <input type="checkbox"/> 関係団体職員 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 児童相談所 <input type="checkbox"/> 自治体研修センター <input type="checkbox"/> 講師所属機関 <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 統一教材 <input type="checkbox"/> テーマ毎に講師が作成 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> なし
		<input type="checkbox"/> 全職員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 児童福祉司 <input type="checkbox"/> 児童心理司 <input type="checkbox"/> 一時保護所職員 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> 新採・新任 <input type="checkbox"/> 5年未満 <input type="checkbox"/> 5～10年 <input type="checkbox"/> 10年以上 <input type="checkbox"/> スーパーバイザー <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 原相職員 <input type="checkbox"/> 学識経験者 <input type="checkbox"/> 関係団体職員 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 児童相談所 <input type="checkbox"/> 自治体研修センター <input type="checkbox"/> 講師所属機関 <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 統一教材 <input type="checkbox"/> テーマ毎に講師が作成 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> なし

調査票2 I 研修内容リスト

A	子どもの権利擁護・個人情報の扱い	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの人権、権利擁護 2 子どもの権利条約 3 基本的人権問題の理解 4 対人援助活動における価値・倫理 5 個人情報保護法、自治体の条例 6 個人情報取り扱いの留意点 7 情報公開 8 その他
B	児童福祉法等の法制度・子ども施策	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉法、児童虐待防止法 2 少年法、DV防止法、民法等 3 生活保護法、社会福祉法、障害者関連法等 4 少子化対策 5 児童福祉関連施策 6 その他
C	児童相談所	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童相談所の組織、機能、役割 2 各職種の役割と連携 3 児童相談所の運営と課題 4 一時保護所 5 その他
D	子ども家庭相談	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども家庭相談の基本的流れ 2 養護相談の理解 3 非行相談の理解 4 障害相談の理解 5 育成相談の理解 6 診断、評価、援助計画 7 一時保護、指導、措置 8 在宅支援 9 記録事務の流れ 10 事例研究 11 その他
E	子ども・親・家族の理解	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども親、子どもの心身の発達 2 パーソナリティの理解 3 親子関係、家族関係、家族力動 4 発達障害(知的障害等)、精神障害、人格障害、依存症 5 DV、虐待 6 不登校、ひきこもり 7 その他
F	援助技術	<ol style="list-style-type: none"> 1 面接、コミュニケーション技法 2 ジェネリックソーシャルワーク 3 子ども家庭ソーシャルワーク 4 虐待対応ソーシャルワーク 5 心理治療(個人、家族、グループ) 6 フォレンジックインタビュー 7 一時保護所におけるケアワーク 8 その他
G	心理診断、心理療法	<ol style="list-style-type: none"> 1 心理検査・心理所見 2 心理面接 3 行動観察 4 心理療法(遊戯療法等) 5 トラウマ治療 6 精神分析 7 家族療法 8 その他

H	児童福祉施設、里親制度	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設の役割 2 児童福祉施設との連携 3 施設内暴力等への対応 4 里親制度、里親委託 5 養子縁組 6 里親支援 7 その他
I	関係機関の理解・連携・支援	<ol style="list-style-type: none"> 1 市町村、福祉事務所、家庭児童相談室 2 保健機関、学校、医療機関 3 警察、家庭裁判所 4 児童福祉施設 5 民間団体 6 コンサルテーション 7 ネットワーキング 8 その他
J	児童虐待への対応	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童虐待のメカニズム等基本的理解 2 被虐待児、親の理解と援助 3 初期対応、リスクアセスメント 4 介入的手法 5 ケースマネジメント 6 機関連携 7 法的対応(審議会の意見聴取も含む) 8 子どものケア 9 家族治療、家族再統合 10 性的虐待への対応 11 法医学から見た児童虐待 12 一時保護所における対応 13 その他
K	非行問題への対応	<ol style="list-style-type: none"> 1 非行問題、子ども、親の理解 2 非行児童への支援 3 非行児童の親への支援 4 一時保護所における対応 5 学校、施設、警察、家庭裁判所との連携 6 その他
L	スーパービジョン、OJT	<ol style="list-style-type: none"> 1 スーパービジョンの基本 2 スーパービジョンの方法 3 個別スーパービジョン 4 グループスーパービジョン 5 OJT 6 その他
M	組織管理、危機管理	<ol style="list-style-type: none"> 1 組織管理 2 ケース管理 3 危機管理 4 事例の検証 5 職員のメンタルヘルス 6 訴訟への対応 7 マスコミ対応 8 その他

児童相談所調査票Ⅱ

児童相談所名 _____

I 貴児童相談所の職員数についてお尋ねします。

1. 下記職員数及び経験年数(常勤職員のみ、所長は除く)をお教えてください。

平成17年11月 1日現在

職 種	1年目	2～5年目	6～10年目	11年目以上	合 計
①児童福祉司					
②児童心理司					
③児童指導員					
④保育士					
⑤相談員					

2. スーパーバイザーとして位置づけている職員数をお教えてください。

- ① ソーシャルワークの領域 _____ 名
 ② 心理の領域 _____ 名
 ③ 一時保護の領域 _____ 名

3. 児童虐待に対応する専任職員数をお教えてください。

総数 _____ 名 (内 訳) 児童福祉司 _____ 名
 児童心理司 _____ 名
 虐待対応協力員 _____ 名
 その他 _____ 名

II 貴児童相談所の平成16年度児童相談処理件数等についてお尋ねします。

全児童相談処理件数 _____ 件 虐待相談処理件数が占める割合(_____ %)
 養護相談処理件数 _____ 件 虐待相談処理件数が占める割合(_____ %)
 虐待相談処理件数 _____ 件 虐待相談処理件数の前年度比率(_____ %)

III 貴児童相談所の研修等、トレーニングについてお尋ねします。

1. 平成16年度に、貴児童相談所が独自に実施又は参加した研修等のうち、児童虐待の対応に関連した研修等職員のトレーニングの内容及び方法をお教えてください。

① 内容

② 方法

2. 児童虐待の対応に関連した研修等職員のトレーニングに関する課題と今後のあり方について、できるだけ具体的にお書きください。(いくつでも結構です)

① 課題

② 今後のあり方

回答者のご氏名、役職等についてご記入ください。 作成日 平成17年11月 日

ご氏名 _____

役職 _____

ご協力ありがとうございました。

施設調査票（新任職員用）

貴施設の新任および新規採用職員（保育士・児童指導員等の直接処遇職員、以下同じ）の研修についてお尋ねします。下記の設問にお答えください。

問1 施設および回答者についてお答え下さい。

施設種別については、①児童養護施設、②情緒障害児短期治療施設、③児童自立支援施設から該当する番号でお答えください。

施設名及び施設種別	施設名	施設種別
回答者の役職及び氏名	役職	氏名
回答者の児童福祉現場における総勤務年数 (他施設・機関での経験を含む)。	経験年数	年

問2 貴施設における平成16年度新規採用職員数をお教えてください。

総数	人
----	---

内訳について ① 児童指導員（ 人）、② 保育士（ 人）、③ 心理士（ 人）、
④ その他（ 人）（具体的に)

問3 貴施設では、新任および新規採用職員（以下、新任職員という）に対する指導担当者はいますか。番号でお答えください。

① いる ② いない

問4 設問3で「いる」と答えられた方にお尋ねします。

指導担当者の人数と役職、経験年数をお教えてください。担当者が複数の場合は、個々に役職、経験年数をお答えください。役職については、① 副施設長、② スーパーバイザー、③ 主任指導員、④ 主任保育士、⑤ 児童指導員、⑥ 保育士、⑦ その他 から番号でお答えください。

計（ 人）	・ 役職（ ）	経験年数（ 年）
	・ 役職（ ）	経験年数（ 年）
	・ 役職（ ）	経験年数（ 年）

問5 設問3で「いる」と答えられた方にお尋ねします。

貴施設での新任職員指導育成の現状で最も近いものを、次の中から選んで番号でお答えください。（複数回答の場合は、主なものから順にお答えください）

① 指導担当者が随時、新任職員を指導育成している。
 ② 新任職員に業務マニュアルを渡し、それに則って指導担当者が指導育成している。
 ③ 新任職員の研修計画を立て、それに則って指導担当者が指導育成している。
 ④ 特別に指導育成の時間を定期的にとって、指導担当者が指導育成している。
 ⑤ 特に、実施していない。
 ⑥ その他(具体的に)

問6 設問3で「いない」と答えられた方にお尋ねします。

貴施設での新任職員育成の現状に最も近いものを、次の中から選んで番号でお答えください。
(複数回答の場合は、主なものから順にお答えください)

- ① 特に指定していないが、配属部署の先輩職員が随時指導育成している。
- ② 新任職員が自主的に、先輩等に相談し、指導指示を得ている。
- ③ 適宜、施設長や主任が新任職員の職務遂行状況を留意しながら、指導指示をしている。
- ④ 職員会議等の場で、他職員と同様に指導指示をしている。
- ⑤ 特に、実施していない。
- ⑥ その他(具体的に)

問7 貴施設では新任職員に初期研修を施設内で実施されていますか。番号でお答えください。

- ① いる
- ② いない

問8 設問7で「いる」と答えられた方にお尋ねします。

1) 平成16年度の施設内研修で、新任職員一人当たりの平均研修日数をお答えください。

1日2~3時間の研修の場合は0.5日とする。通年の施設現場でのOJTは含めない。なお、OJTとは、職務を通じて行うもので、日常のあらゆる機会が指導育成の場となり、特別な時間をさく必要がない研修をいう。

平均	日間
----	----

2) 平成16年度の新任職員に対する施設内初期研修の内容とその方法、講師についてお答えください。

内 容	方法・回数・時間	講 師
例示 施設の概要	講義1回・2時間	施設長
業務の管理	講義2回・6時間	副施設長及び主任
他機関、施設の見学	演習2回・12時間	主任指導員
子どもの褒め方叱り方	ロールプレイ1回・3時間	主任指導員・主任保育士

問9 設問7で「いない」と答えられた方に、その理由をお尋ねします。下記の中から当てはまるものを番号でお教えてください。(複数回答可)

- ① 新任研修は、施設内の業務の中で実施しているため、特に必要性を感じていない。
- ② 新任の該当者が少なく、日常業務中の対応で十分と感じている。
- ③ 法人で一括して実施しているため、当該施設内では実施していない。
- ④ 新任研修の必要性は感じるが、日常業務の中で特別に実施するのは困難である。
- ⑤ 施設外研修の受講機会があるので、特にしていない。
- ⑥ その他(具体的に)

問10 施設外で新任職員が参加する研修はありますか。番号でお答えください。

- ① ある
- ② ない

問11 設問10で「ある」と答えられた方にお尋ねします。

平成16年度に貴施設から新任職員として参加された研修について、研修テーマ、研修主催者、研修内容などについて、下記の欄にお答えください。

研修テーマ	研修主催者	研修内容	研修方法	参加人数

・「研修方法」については、次の中から番号を選んでください。(複数回答可)

- ①「講義形式」 ②「演習形式」(ロールプレイ、事例検討など、具体的な手法も記入下さい)
- ③「実地研修Ⅰ・施設見学」 ④「実地研修Ⅱ・他施設や機関での研修」
- ⑤「宿泊研修」 ⑥「その他」(具体的な内容も記入下さい)

・「参加人数」については、貴施設からの参加人数をご記入ください。

問 15 貴施設で、新任職員が外部研修に行かれた後の報告についてお尋ねします。下記の中から現状に近いものを選んで番号でお教えてください。(複数回答可)

- ① 施設長あての出張報告書の提出を求めている。
- ② 他職員にも還元できるように、施設内研修会での報告を求めている。
- ③ 施設長が受講した新任職員に内容等を聴き、個別に指導育成している。
- ④ 研修内容を報告するレポートを出張報告書以外にも特別に提出してもらっている。
- ⑤ 指導担当者が個別に報告を受けながら、指導育成している。
- ⑥ 受講報告以外に、課題を課してレポートの提出を求めている。
- ⑦ その他(具体的に)

問 16 虐待を受けた子ども及びその親又は関係機関等に適切に対応するため、現在、貴施設の新任職員には、どのような研修内容とトレーニング方法が必要であるとお考えですか。必要な研修内容とトレーニング方法について、下記のA、B群について、それぞれ2つを選んで番号でお答えください。

A群(研修内容)

- ① 児童虐待の定義や虐待の発生要因の理解
- ② 子どもの権利や子どもの最善の利益の理解
- ③ 虐待する親のタイプの理解と親への援助の必要性の理解
- ④ 児童虐待防止法や子ども虐待対応の手引きの内容の理解
- ⑤ 虐待を受けた子どもの行動特徴の理解
- ⑥ 虐待を受けた子どもの入退所時に配慮すべき援助内容の理解
- ⑦ 親の面会や一時帰宅の際に配慮すべき援助内容の理解
- ⑧ 虐待によるトラウマの理解と心理的ケアの方法
- ⑨ 子どもの発達と愛着障害の理解と援助方法
- ⑩ 虐待を受けた子どもの問題行動への対処方法
- ⑪ 親子関係の理解と親子関係改善のための援助方法
- ⑫ 親対応や親指導の仕方
- ⑬ 施設内チームワークの重要性の理解
- ⑭ 地域の関係機関との連携のあり方や調整の仕方
- ⑮ 虐待を受けた子どもと家庭のケース理解
- ⑯ その他(具体的に)

B群(トレーニング方法)

- ① 指導担当職員による日常的な個別指導
- ② 講義形式や演習形式による施設内研修会の開催
- ③ 事例検討会の開催や職員会議でのケース検討
- ④ 他機関や他施設での研修会に参加
- ⑤ 課題に対応した自主研修や外部研修への参加
- ⑥ 外部講師を招聘して施設内研修の実施
- ⑦ 個別又は集団的スーパービジョンの活用
- ⑧ 大学等外部機関への派遣
- ⑨ その他(具体的に)

問 17 貴施設内で、新任職員に対して、児童虐待の対応に関連した特別な研修等トレーニングを、過去 2～3 年の間に実施されている場合、その概要をお教えてください。

問 18 新任職員の研修や現場でのトレーニングのあり方について、今後の課題や改善すべき問題点について自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

問6 設問3で「いない」と答えられた方にお尋ねします。

貴施設での中堅職員育成の現状に最も近いものを、次の中から選んで番号でお答えください。
(複数回答の場合は、主なものから順にお答えください)

- ① 特に指定していないが、配属部署の先輩職員が随時指導育成している。
- ② 中堅職員が自主的に、先輩等に相談し、指導指示を得ている。
- ③ 適宜、施設長や主任が中堅職員の職務遂行状況を留意しながら、指導指示をしている。
- ④ 職員会議等の場で、他職員と同様に指導指示をしている。
- ⑤ 特に、実施していない。
- ⑥ その他（具体的に _____)

問7 貴施設では中堅職員に見合った研修を施設内で実施されていますか。

番号でお答えください。

- ① いる ② いない

問8 設問7で「いる」と答えられた方にお尋ねします。

1) 平成16年度の施設内研修で、中堅職員一人当たりの平均研修日数をお答えください。

1日2~3時間の研修の場合は0.5日とする。通年の施設現場でのOJTは含めない。なお、OJTとは、職務を通じて行うもので、日常のあらゆる機会が指導育成の場となり、特別な時間をさく必要がない研修をいう。

平均	日間
----	----

2) 平成16年度の中堅職員に対する施設内研修の内容とその方法、講師についてお答えください。

内 容	方法・回数・時間	講 師
例示 施設の運営	講義1回・2時間	施設長
事例検討	グループ討議2回・6時間	外部講師
緊急対応、危機管理	演習1回・3時間	主任指導員
リーダーシップ	ロールプレイ1回・3時間	主任指導員・主任保育士